

(農林水産省) 全体ヒアリング概要

日時：平成21年11月5日(木) 15:15～15:35

場所：合同庁舎4号館4階第4特別会議室

聴取者：有識者議員 相澤議員、本席議員、奥村議員、白石議員、青木議員
内閣府 藤田政策統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大江田審議官、
須藤参事官、更田企画官

説明者：農林水産省 佐々木農林水産技術会議事務局長

【相澤議員】

グリーンイノベーションを推進する方針を受けて、農林水産省の中で、科学技術関係予算の枠以外のいわゆる壁を越えた予算措置等があったのかどうか教えて欲しい。

【農林水産省】

特段そういうことは無い。

【相澤議員】

グリーンイノベーションは28%増の要求であるが、8月以降の変更点としては、具体的にどの施策が組換えられたのか。

【農林水産省】

グリーンイノベーション関連施策として、民間主導技術開発促進事業、地球温暖化対策のための緩和及び適応技術の開発等を組換え新規で要求している。

【相澤議員】

適応技術の開発も増額したのか。

【農林水産省】

地球温暖化対策のための緩和及び適応技術の開発に組換えて、8月の4.45億円から増額して新規要求している。バイオマスも同様に2億円ほど増額している。飼料用米の研究開発も組換え新規で要求している。

【青木議員】

マニフェストでは、農家の所得保障がうたわれているが、それを考慮した科学技術政策というものはあるのか。

【農林水産省】

地域の活性化、農家の所得向上もそうだが、水田を有効に活用することに重点を置くべきであるとする。INDEX2009でも飼料用米の活用が記載されている。戸別所得補償は制度的なものであり、直接そのためということではないが、生産があるからこそ農家の所得にも結びつくものとする。

【奥村議員】

特別会計を活用した30億円の仕組みは新しいが、俯瞰的なところから、もっとやるべきことがあるのではないかと。政策として、やや特殊な解決策ばかり並んでいる印象を受ける。

【農林水産省】

森林吸収源の研究や農地による吸収についての研究等を進めていきたい。

【相澤議員】

グリーンイノベーションという大きな傘に対し、どのように考えて施策を展開していくのか。大きな構想はないのか。

【農林水産省】

緩和策と適応策の両面で貢献していきたい。緩和策としては排出抑制や吸収対策を進め、国際的な枠組みの中で海外との連携を進めていきたい。適応策については、温暖化により、米が白く濁る、果実に色が付かない等の具体的な障害が出てきている。農業の生産現場に結びつくような施策を進めていきたい。

【相澤議員】

今回のグリーンイノベーションの中に、農林水産業の再生も入っている。そういうことが分かるような説明があると良かったのではないかと。思う。

以上